

令和7年度 小樽市立奥沢小学校 学力向上改善プラン

1 児童の実態

昨年度の全国学力・学習状況調査の結果では、国語では全国平均を2.3ポイント上回り、算数では全国平均を0.4ポイント下回ったものの一昨年度よりも大きく改善を図ることができた。このように一定程度の成果がみられるものの、まだ課題となる点も多い。

国語においては、ほとんどの内容・観点で全国平均を上回ることができたが、「読むこと」についてのみ全国平均を4ポイント下回っており、児童の読解力不足に大きな課題がある結果となった。また、児童質問調査からも児童の読書量についての回答が二極化しており、全校的に児童の読書習慣の定着を図る取組を進める必要がある。

算数については、全体的に全国平均並の定着が図れていると言えるが、「数と計算」が若干全国平均を下回っている。この領域は算数科の土台となっていくことから更なる定着を図っていくことが必要である。また、正答率の分布から二極化していることが見て取れるため、下位層の児童への適切な支援と配慮の必要性が強く求められる。

次に、前年度の各教科における「学年ごとの定着目標」については、概ね各目標達成に近づいてはいるものの十分な結果に至らないものもある。課題となる部分に重点的に取組むことはもちろんだが、各学年で目指すべき指針として変更はせずに継続して取組んでいきたい。

その他、学年×10分+10分の家庭学習習慣の確立については、児童アンケートの結果72.7%となっており、特に高学年での課題が見られる。

2 学年ごとの定着目標（数値目標）

<国語科>

学年	定着目標
1年	・ひらがな100%、カタカナ90% 漢字90%以上 ・教科書をすらすら読めるようにする。90%以上
2年	・配当漢字を読んだり、書いたりする。80%以上
3年	・教科書をすらすら読めるようにする。90%以上
4年	<以下3年生以上>
5年	・課題や条件に合わせて文を書けるようにする。
6年	85%以上

<算数科>

学年	定着目標
1年	・繰り上がり繰り下がり足し算・引き算 90%以上
2年	・かけ算の意味理解（1あたりの重視）と九九の徹底・定着90%以上 ・三角形と四角形の理解と三角定規の操作の習得90%以上
3年	・割り算の意味理解と定着・コンパス操作の習得 80%以上
4年	・小数の四則計算の定着・わり算の筆算の習得・正方形 ・□を使った式・計算・分度器操作の習得 すべて80%以上
5年	・小数・分数の加減計算・割合に関する基本問題の習得 ・円周の求め方の習得 すべて80%以上
6年	・分数の四則計算・立体の体積・円の面積の求め方 ・グラフやデータの読み取り習得 すべて80%以上

<学習・生活習慣（家庭学習等）>

学年	定着目標
1年	・宿題提出を95%以上 ・読書習慣の定着95%以上
2年	
3年	・宿題提出を95%以上 ・読書習慣の定着80%以上
4年	
5年	・宿題提出を95%以上 ・読書習慣の定着70%以上
6年	・家庭学習ノートの提出90%以上

3 目標を達成するための具体的な方策

（1）基礎学力の確実な定着を図る取組

- ①宿題、家庭学習の徹底
- ②デジタルドリルを活用した自主的な課題への取組
- ③チャレンジテスト、確認テストでの振り返り

（2）確かな学力をはぐくむ授業改善の取組

- ①「小樽授業づくりの5つのSTEP!!」に基づいた「見通し」「振り返り」を位置づけた授業改善、
- ②校内研修の充実、公開研・研修会等への積極的な参加

（3）家庭と連携した学習習慣・生活習慣をはぐくむ取組

- ①おたるスマート7や生活リズムチェックシートの活用等、家庭への啓発活動
- ②保護者会や学校だより等を活用した、音読や読書習慣の定着に向けた継続的な取組（家庭学習の手引きの見直し、配布等）

4 実施計画

年月日	計 画 内 容
R7年	・学力向上改善プランの作成
4月	・全国学力・学習状況調査過去問題への取組 ・チャレンジテスト（前年度問題）の実施 ○R7全国学力・学習状況調査の実施 ○全国学力・学習状況調査 自己採点
	○標準学力調査実施（第3学年・第5学年）
5月	・全国学力・学習状況調査自己採点結果の分析 （校内学力向上検討委員会） <放課後学習会>
6月	○標準学力調査結果分析
7月	・結果分析を踏まえた授業改善 ＜校内授業交流＞ ・チャレンジテスト（1学期末問題）の実施 ・夏休み学習チャレンジタイム
8月	○R7全国学力・学習状況調査結果分析
9月	○保護者への調査結果の説明 ○学力向上改善プランの評価・改善
10月	・全国学力・学習状況調査過去問題の実施
11月	・校内研究授業、公開研究授業の実施
12月	・チャレンジテスト（2学期末問題）の実施
R8年	・冬休み学習チャレンジタイム
1月	・自作作成の「確認テスト」（国、算）の実施
2月	・学力向上検討委員会「確認テスト」の実施
3月	○新学力向上改善プランの作成

5 評価方法

（1）基礎学力の確実な定着を図る取組

- ①学力向上委員会、専科教員を中心として実施状況の確認調査
- ②情報教育DX推進委員会を中心として活用状況の確認調査
- ③主幹教諭を中心として集計と検証

（2）確かな学力をはぐくむ授業改善の取組

- ①日常的な授業交流、研修での授業公開を通しての授業評価
- ②計画的な研修会等へ参加と環流の場を必須とした研修の充実

（3）家庭と連携した学習習慣・生活習慣をはぐくむ取組

- ①自己評価（教員）・児童アンケート・保護者アンケートの結果分析
- ②読書に関するに関する特別の確認調査の実施と検証